

小諸市長 小 泉 俊 博 様

小諸市議会議長 相 原 久 男

市民の声を実現させるための提言書

小諸市議会は、本年5月に議会と語る会を開催しました。

今回は、喫緊の課題である「学校改築計画」及び「公共交通」をテーマにして、市民との意見交換を行いました。次のとおり意見をまとめ提言いたしますので、次年度の事業計画に当たりご配慮いただきますようお願いいたします。なお、予算案が提示される3月定例会の常任委員会では、この提言の検討結果や進捗状況等をお聞きし、審議を進める予定ですのでご承知願います。

◆学校改築計画について

統廃合の賛否や小中一貫校の導入、地域コミュニティに与える影響など様々な意見や要望が出されました。学校改築計画策定に当たっては、子どもたちや地域に及ぼす影響とメリット、デメリットなどの調査・研究を行い、また、今後の児童生徒数の推移と建物の劣化状況、財政的な裏付けや維持費などの基礎的なデータと合わせ、調査結果を公表し、市民に判断材料を示した上で、合意形成に努めること。

また、現在までに施設の耐震化や改築を行っているが二重投資とならないよう配慮が必要である。

◇学校改築計画以外で出された課題について

学校改築には、今後数年を要することから、現状の課題について出された多くの意見の中で、緊急性を要する事項を提示いたします。

1 児童生徒の安全確保

- (1) 児童・生徒の登下校における安全確保のため、通学路へのグリーンベルトの新設と塗り直し、また、ヘルメットの着用等について検討の必要がある。
- (2) 各区等で実施している見守り隊について、地域での取り組みに温度差があるため、市全体での活発な取り組みを促す必要がある。

2 学校施設及び学習環境の向上

備品（机、椅子、テレビ等）の計画的な更新を行うとともに、ロッカーが狭く収納に支障をきたしているため、改修を行う必要がある。

3 非常用備蓄品及び避難場所の整備

(1) 災害時の避難場所に指定されている学校への備蓄品を充実するとともに、校舎外の備蓄品倉庫の設置も必要である。

(2) 各地域の公園を多目的公園（子どもや高齢者が安心して過ごせる場所・避難場所）として整備するよう研究していく必要がある。

4 携帯電話端末やインターネットの危険性の啓発

スマートフォンや携帯ゲームを長時間使用することによる弊害に対し、利用に当たってのルールづくりを行うとともに、モラルやマナーについて啓発を強化する必要がある。

◆公共交通について

1 利用周知

利用方法が周知されていない人の中には、利用したいが仕組みが分からない人と公共交通を利用する必要のない人の2種類がある。

利用したいが仕組みがわからない人には、理解するまで丁寧に寄り添った説明が必要である。

また、現在、公共交通を利用する必要のない人にも、将来、公共交通が必要になる可能性もあることから、事前に登録をしてもらうようきめ細かな粘り強いPRが必要である。

2 利用料金

今までのすみれ号と比較して高いと感じている人と利用者の中には利便性の向上により安いと感じている人がいる。

高いと感じている人には、料金設定の根拠を説明し理解を得ると共に、さらに利便性を高め、料金が妥当であると感じてもらふ必要がある。また、予約に掛かる電話代をフリーダイヤルにする等、利用者の負担の軽減を図ることも必要である。

3 利便性向上

(1) 定時定路線バス

現在の運行路線、ダイヤ及び停留所がニーズに合っていないことから、愛のりくん利用者、未利用者共にこもろすみれ号の復活を望む声が多くある。また、定時定路線バスを登下校に利用したくても利用できないとの声が多い。

これらを解決するには、車両台数を増やし対応をする必要がある。また、市内施設を周遊する循環バスの検討も必要である。

(2) 予約制相乗りタクシー

目的地への直行やドア・ツー・ドアの完全実施等の希望の声がある。これらを解決するには、さらに乗降場所のニーズを調査し、整骨院や接骨院など高齢者の希望する場所を増やす必要がある。また、居住地から同一エリア外にあるスーパーや医者等に直接行けるような路線の検討及び運転手の再教育も必要である。

4 観光対応等バス

バスを有効利用するために次の検討を求めます。

- ① 土日に観光拠点を周遊する循環バスの検討を行うこと。
- ② イベント開催時におけるシャトルバスの検討を行うこと。

5 公共交通事業に対する予算

市民からは利便性の向上が多く求められており、それらを実現するためには費用の増大は避けられない。これを利用料金に転嫁するのか、税金を投入するのか、いずれにしても公共交通事業を永続的に持続させるための積算根拠を市民に示し、説明責任を果たし理解を得る必要がある。